３３	岡山県立岡山御津高等学校	全日制	総合学科	２６～２８

平成２８年度　個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育
研究開発実施報告書（要約）

１　研究開発課題

高等学校において発達障害あるいはその可能性のある生徒への障害の改善・克服をするために，必要な知識・技能・態度を身に付ける領域（自立活動）を取り入れた教育課程を編成し，個々の目標に向かって自己理解や社会性に関連した内容を少人数，または１対１で指導することに関する研究とする。

２　研究の概要

本研究では，高等学校において，発達障害を含む障害のある生徒に特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」を選択授業として設定し，①教育課程編成の在り方，②具体的な指導内容とそれに関する指導方法と評価方法，③指導形態について検討を進める。また，通常の授業においても特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを行い，「自立活動」の領域と関連をもたせ，指導がより効果的になるための指導方法を整理する。

３　研究の目的と仮説等

（１）研究開始時の状況と研究の目的

本校は，平成１７年４月に１学年４学級（定員１６０名）の総合学科として誕生した。生徒の学力については，中学校の学習内容を理解できないままでいる生徒の割合が高く，授業への取組は概して消極的である。また，発達障害あるいはその可能性のある生徒は毎年度入学してきており，診断のある生徒や，診断はないが特別の支援を必要とする生徒がどの学年にも在籍しており，その数は増加傾向にもある。

今年度は指導対象を，受講を希望する１年次生とし，入学前から保護者や中学校と連携を取り，研究を進めることとした。

研究の目的は，発達障害あるいはその可能性のある生徒に対する後期中等教育の障害の改善・克服をするための知識・技能・態度を育てる方法に関する効果と課題について提言することである。

（２）研究仮説

障害の改善・克服の知識・技能・態度を育てる特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」を設定し，その内容を小集団指導，場合によっては個別指導することで，高等学校における学習，生活，さらには，卒業後より豊かな生活を過ごすことがより可

能になる。

（３）教育課程の特例

高等学校学習指導要領の必履修科目，総合的な学習の時間，特別活動に加え，特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」を加えて教育課程を編成する。

自立活動の指導については，選択授業の一つとして扱い，実態から想定される指導内容や授業時間数・単位数は以下のとおりである。

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
自校における自立活動として １年次に実施 校内名称「ｿｰｼｬﾙ･ｽｷﾙ･ｱｯﾌﾟ」 略称「ＳＳＵ」	コミュニケーション活動 ストレスマネジメント アサーショントレーニング スケジュール管理　　等	70 時間・２単位 １講座 （卒業単位に含む）

（４）個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

① 特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり

新年度にあたり，教員の入れ替わりもあり，もう一度徹底するために職員会議で次の項目について確認した。

ア．普通教室について

・教室前黒板には，日付，日直名以外の掲示はせず，授業に使うスペースを確保する。

・掲示物は，前黒板左横の掲示板や教室後方の掲示板・黒板を上手に活用する。

イ．授業始めの「めあて」と「授業の流れ」の明示，授業終わりの「振り返り」時間の確保の実践を呼びかけている。また，生徒配付のプリントの文字は，できる限り「ゴシック体で１２ポイント」をお願いしている。

ウ．少人数講座やチームティーチングの実践

・総合学科のため，科目選択の約６５％で２０人以下の少人数授業を実施している。また，１年次での国語，数学，英語，２・３年次での数学で習熟度別や少人数授業を行い，ホームルームは二人担任制できめ細やかな指導を行っている。また，商業や情報など実技を伴う科目や，一部の学校設定科目ではチームティーチングを行っている。

エ．すべての普通教室に天吊型プロジェクターを導入

・視覚的な支援を強化するためにすべての普通教室に天吊型のプロジェクターを導入した。書画カメラがまだ６台しかなく，残りはタブレットで対応するように整備を進めている。

② 個々の能力・才能を伸ばす指導

①の実践と実態把握を含めながら，個々の得意なところを把握し，一斉指導に生かせるようにする。授業では見られない部活動や委員会活動での活躍も報告してもらい，「産業社会と人間」の授業などで自己ＰＲを書かせることによって，自己肯定感を高めるように取り組んだ。

③　「ＳＳＵだより」と「ＳＳＵだよりＰＬＵＳ」の発行

全教員に「自立活動」（校内名称：ソーシャル・スキル・アップ（ＳＳＵ））の授業の様子を知らせるために，「ＳＳＵだより」を１０号発行した。これにより，授業内容や受講生の様子を知らせるることができ，受講者の日常に気を配ってもらえるようになった。また，「ＳＳＵだよりＰＬＵＳ」も発行し，「自立活動とは何か？　今後，どのように制度化されていくのか？」など，全教員に知ってもらえるように取り組んだ。

（５）研究成果の評価方法

・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討
・生徒や保護者へのアンケート形式による意識調査
・最終報告会での評価
・運営指導委員会による総括

４　研究の経過等

（１）教育課程の内容

自己理解と社会性の知識，技能を習得する「自立活動」（校内名称：ソーシャル・スキル・アップ）２単位を開設し，４名以下の少人数の指導形態で２講座を開講する計画で受講生徒を募集した。合格通知に，講座の「趣意書」と「受講希望票」を同封し，さらに，合格者登校日の全体の場において研究の趣旨と授業内容などを説明した上で，受講を希望する５名の生徒と保護者と共に面談を持った。その後，彼らの希望が研究の趣旨と合致しているかを見定めて，研究開発委員会において検討し，４名の生徒の受講を決定した。教育課程上では，当初，「自立活動」は「数学Ａ」との選択を想定していたが，全員が進学希望で「数学Ａ」は履修したいという要望があったため，生徒の希望を尊重し，火曜日と水曜日の放課後７限を特別に開講することにした。

授業形態については，生徒を小集団として学習を進めるが，個々の目標を立てて，状況に応じて個別の対応がとれるよう３人のチームティーチング体制で実践していった。

授業日	生徒	教員	課題
火・水曜 ７限	男子２名 女子２名	３名	対人関係面

※１名退学したため，現在は３名が受講している

（２）全課程の修了認定の要件

・欠課時数が指導時数（３５×２単位）の３分の１以下のとき履修とする。
・学習に対する意欲や態度，進歩の状況などを踏まえ，「ソーシャル・スキル・アップ」の目標からみて満足できると認められることで修了とする。

（３）研究の経過

	実施内容等
第一年次 26年度	４月　準備委員会の設置 ５月　中学校への情報収集 ７月　第１回運営指導委員会 神奈川県立修悠館高等学校　訪問 文部科学省事業説明会　参加 第１回校内研究開発委員会「対象生徒候補者選び」 ８月　滋賀県立日野高等学校　資料収集 ９月　候補生徒　面談 福岡県立東鷹高等学校　訪問 10 月　第１回教員研修会「高校生の発達障害」 対象生徒　面談 保護者への説明（電話・文書） 11 月　第２回運営指導委員会 京都府立朱雀高等学校　訪問 岡山県総合教育センター　訪問 12 月　保護者面談 徳島県発達障がい教育研究会　参加 １月　文部科学省事業研究協議会　参加 第３回運営指導委員会 島根県立邇摩高等学校　訪問 ２月　徳島県立海部高等学校　訪問 神奈川県立綾瀬西高等学校　訪問 第２回校内研究開発委員会「個別の教育支援計画の検討」 ３月　第１回校内企画委員会 ３月　中学校への聞き取り　訪問 ※毎週金曜日２時間目に担当者会を開催
第二年次 27年度	４月　第１回校内企画委員会　第１回校内研究開発委員会　合同会議 （＝研究開発企画委員会） ４月「キャリア活動」指導実施　開始 ５月　第１回校内研修会 「発達障害と共に生きる」当事者を招いて （岡山県発達障害者当事者会「わ」の会　代表　瑠璃真依子氏） ６月　第１回運営指導委員会 ６月　第２回校内研修会（１年次団） 「アセスメントシートの結果分析会」 （岡山県総合教育センター特別支援教育部 指導主事　定久照美氏）

	７月　第２回校内研究開発委員会 ７月　保護者懇談（支援の内容の説明と修正） ８月　第３回校内研修会 「発達障害の人とスムーズなコミュニケーションをするために ～ＳＳＴやアンガーマネジメントを活用して」 （ノートルダム清心女子大学　準教授　東俊一氏） 10 月　佐賀県立太良高等学校　訪問 10 月　岡山市立石井中学校通級教室　訪問 10 月　第４回校内研修会 「発達障害のある高校生を支援するための授業づくり」 （川崎医療短期大学　講師　重松孝治氏） 11 月　中間報告会（公開授業及び研究協議） 12 月　兵庫県立西宮香風高等学校　中間報告会　参加 12 月　徳島県発達障がい教育研究会　参加 12 月　保護者懇談（支援結果の報告と次年度に向けて） 12 月　第３回校内研究開発委員会 １月　第２回運営指導委員会 ２月　文部科学省事業研究協議会 ２月　第４回校内研究開発委員会 ３月　第５回校内研修会 「発達障害（二次障害）の視点を踏まえた 生徒への関わり方について～非行に至る生徒の特徴～」 （岡山県赤磐市立磐梨中学校長　田上善朗氏） ３月　第２回校内企画委員会 ３月　中間報告書の発刊 ３月　合格者登校日において，次年度希望者募集 ３月　中学校への聞き取り　訪問 ※担当者会を月曜日５・６限，水曜日４限，金曜日６限に開催 （＊５月　専門指導員派遣事業を活用）
第三年次 **28年度**	４月　第１回校内企画委員会　第１回校内研究開発委員会　合同会議 ４月　３年次生対象生徒の観察・検証　開始 ４月　「ソーシャル・スキル・アップ」指導実施　開始 ５月　第１回運営指導委員会 ５月　新入生検討会 ６月　文部科学省実地調査 ７月　第２回校内研究開発委員会 ７月　保護者懇談（支援の内容の説明と修正） ８月　校内研修会 「発達障害のある卒業生の進路」 岡山市発達障害者支援センター　関川裕美　氏 11 月　文部科学省事業　成果報告会 11 月　公開授業・研究授業・最終報告会

	12 月　京都府立田辺高等学校　成果報告会視察 12 月　保護者懇談（支援の内容の説明と修正） １月　第２回運営指導委員会 ２月　第３回校内研究開発委員会 ３月　第２回校内企画委員会 ３月　合格者登校日において，次年度希望者募集 ３月　中学校への聞き取り　訪問 ３月　最終報告書の発刊 ※担当者会を月曜日５・６限，水曜日４限，金曜日３・４限に開催 （＊５月　専門指導員派遣事業を活用）

（４）評価に関する取組

第一年次 （２６年度）	・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討 ・運営指導委員会による総括
第二年次 （２７年度）	・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討 ・生徒や保護者へのアンケート形式による意識調査 ・中間報告会での評価 ・運営指導委員会による総括
第三年次 （２８年度）	・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討 ・生徒や保護者へのアンケート形式による意識調査 ・最終報告会での評価 ・運営指導委員会による総括

５　研究開発の成果

（１）実施による効果

①　対象生徒への効果

生徒の感想は以下のとおりであり,徐々にではあるが効果が見られている。しかし、７限目の負担は大きく,特に部活動に熱心に取り組んでいる生徒は,「早く辞めたい」と思っていたところもあるようである。

●1 年間を振り返って（生徒の感想：１月）　～表記は原文のまま～

生徒Ａ

「ＳＳＵで学んだこと」

私は，以前からコミュニケーションが苦手だという気持ちがあり，本ばかりを読んで自分の世界に入って他人をよせつけないようにしていました。しかし，ＳＳＵで発表や演習で話し合いなどを繰り返すことで，前よりも苦手だった人とのコミュニケーションが少しだけとれるようになってきたので良かったと思いました。

そのほかにも相手の気持ちを推し量ることなどをやったりしてＳＳＵや日常生活な

どが少しずつかわってきたと自分の中で思いました。
　たとえば，会話の途中目を（あわ）したりすることができるなど以前の自分とくらべて少しずつだけど，変化があったようにも思いました。この１年間のＳＳＵで昔と今で大きく変わったので今後にも生かしていきたいと思いました。

生徒Ｂ

「ＳＳＵで１年間学んだこと」

　私が１年間ＳＳＵで学習したことによって，私の変わったところは勉強面が特に自分では大きく変わった部分だと思いました。以前は時間の取り決めをせずただきまぐれにしたい時にするしない時はしないというような状態でしたがＳＳＵで学習した「計画・実行・反省」というテーマでの話し合いやプリントなどで学んだことを家での自分の一つ一つの行動の始まりと終わりがより分かりやすくなり今まで自分の勉強方法がどれだけ意味のないものだったのかが改めて知ることができたことが私がＳＳＵを受けたことで変わった部分です。
　私の日常生活の中で私の特に大きく変わったところは母の手伝いを積極的にとりくみ下の子の面倒を見る回数がさらに多くなり父とは話し方を少し変えるだけでその時間が過ごしやすくなったりなどそれらの部分が特に大きく自分の中で変わった部分だと思いました。
　自分の普段の生活の中で特に頑張ったことは時間の取り決めです。いつ何分何時間その行動を起こし終わらせるかなど折り合いまたは区切りなどを一つ一つの行動の中にとりいれることで行動の面倒さなどの自分の中の考えが変わったりなどここにも自分の中では大きく変わった部分の一つだと思います。
　自分からＳＳＵを受けて，自分自身で行動し最も自分の中での行動する時の計画を立て一日の中で一度も面倒が起こらなかったことが自分の中でＳＳＵのおかげで成功したことです。
　そのほか勉強面では集中が切れにくくなったりなど，学校生活での友達間などもあまりみだれることなく学校生活を過ごしやすくなったりなども自分が一番ＳＳＵを受けたことで変わった部分だと思いました。

生徒Ｃ

「ＳＳＵを通して変わったこと」

　僕は以前から，テスト前の計画や夏休みの計画を考えるのが苦手でした。しかしＳＳＵで提出物を把握する事や，テストの時間割を把握する事で，先に提出物をしようとか，テストの日に受ける教科を前日に勉強すればいいなどを学び，テスト前の計画に役立てることができました。テスト前に目標を立てることでその目標に届くように勉強しようと思い，勉強をがんばることができました。
　そのほかにも，自分は中学校時代，親にプリント類を出すことや授業に配られたプ

リントをファイルにしまうことができなかったのですが，ＳＳＵを通して，大切なプリント類の整理や，授業毎におこなわれるファイリングにより，その弱点を改善することができました。
　僕はＳＳＵを学習して，人はいろいろな考え方があるとわかったので本を読むことをがんばりました。読書によって，文章力や考える力や作者の考えなどいろいろなことがわかり，役に立ちました。それにくわえ夜にスマートフォンやテレビにふれることが少なくなり，生活リズムがよくなりました。
　そのほかにも僕はＳＳＵを受ける前はストレスをためて，人や物に当たってしまっていたので，ＳＳＵでストレスの発散や方法を学ぶことができて，ストレスがたまった時はそれをすることで人や物に当たることがなくなったので，とてもためになりました。
　ＳＳＵで発表をすることによって，ほかの時間でも前に立って発表することが上手になりました。あと，いつも授業の感想を書くことによって，文書をまとめることが上手になりました。
　ＳＳＵに入れて，自分のだめな所やいい所を改めて見直すことができたのでだめな所は直していい所をけいぞくしようと思います。

② 教員への効果

ここでは，５月と１０月に実施した教員向けアンケートより分析してみたい。

転勤して間もない教員は，「発達障害の特性なのか，しつけが不十分なのか。」いずれにしても生徒の行動を理解しづらいと感じている。社会的なルールが身についていない生徒は，確かに何人もいるし，自分の思いを相手に伝えられない生徒が増加していることに危機感を覚えている。「支援が必要な生徒はいる」と思っている教員は約９０％で，「特別支援教育に係る知識や技能が必要だ」と思っている教員も８０％以上いる。「個別の支援が必要な生徒への対応が進んでいるか」について，８０％はそう思っているが，逆に２０％が「わからない」と答えている。また，「教員間の連携ができているか」については，約６０％ができていると思っているが，４０％が「いいえ」「わからない」と回答している。

ほとんどの教員が，本校での特別支援教育に関してさらに多くの取組が必要だと感じており，生徒への理解や指導方法の改善・工夫について実践しつつある。研修についても，本年度は，岡山市発達障害者支援センター関川裕美氏をお迎えし，「発達障害のある卒業生の進路」と題して講演会を開催すると，積極的な参加も見られた。また，生徒理解を進め，授業改善に取り組む教員が増加した。例としては，授業のはじめに「めあて」と「授業の流れ」，授業終わりの「振り返り」の実践がさらに進んでいる。また，書画カメラやパソコン画面をプロジェクターで投影し，視覚的な支援に取り組む授業が増加した。しかし，支援を要する生徒が年々増加する一方で教員数は変わりなく，指導が困難な状態でもある。研究開発の実施によって，「自立活動が必要な生徒が何名もいる，自立活動が必要だと感じる生徒が受講しない」など，課題は認識しつつも日々の業務に追われている。

③ 保護者等への効果

親子とも希望して受講しているので，自立活動の必要性は理解している。夏季休業

時と冬季休業前の三者懇談においてそれまでの学習について報告をした。どの生徒もすべてが改善されたわけではないが，教員の見立てについては納得している。後退して見える面も成長・発達の過程であることを理解している。

④　その他

ア．地域の理解等

学校評議員会で研究の趣旨については，昨年度から理解されていて，その成果についても評価してもらえている。一方，教員の負担増について心配をされていた。

最終報告会には，前年度の中間報告会の２倍の外部参加があり，関心の高さを伺うことができた。高等学校だけではなく，中学校・特別支援学校からも多くの参加があり，連携の重要性を痛感した。

イ．前年実施，「キャリア活動」（前年度の自立活動の校内名称）受講者へのコメントと進路先

受講していた生徒が３年次になって，教員の目にどのように映っているかについてのコメントは以下のようになっている。

・昨年度キャリア活動を受けていた生徒には成長がみられると思う。
・どちらの受講生徒も良い方向にすすめたと思う。本当の意味で本人達にとって「適切な支援になったんだと思う。「キャリア活動」の生徒達は昨年の一年間で学校生活が充実したように見受けた。
・「キャリア活動」での該当生徒の様子の変化に良い意味で驚いた。本校の現状から多くの生徒に受講させるべき活動に感じた。
・理解しづらいことへも，落ち着いて対応できるようになっている。一人一人が自分自身への援助ができている気がする。（自分は〇〇することが苦手なので，△△するようにする。など，自分の中でルールがある。）
・「キャリア活動」は担任をしていたクラスに２人該当の生徒がいたが，２人とも成長が見られたと思う。自らメモを取りだしてメモをとったり，わからない言葉に読み仮名を書いたりと，指示をしなくても自分で考えて行動できていた。前向きに行動できるようになったと３月に思った。
・キャリア活動を受けていた生徒の面接指導をした。３年間の変容を感じるほどの時間を過ごしていないが，質問には彼なりに的確に回答でき，とても頼もしく思った。
・少しずつでも，周りとの友達関係，文章力，集団行動が身についてきていることを感じる。
・教師の話を聴くことができるようになったと思う。

参考までに，「キャリア活動」を受講生した８名の進路であるが，一般就職内定者が５名，家業手伝いが１名，専門学校進学が１名，家庭環境が激変したためにやむを得ず退学した生徒が１名である。

（２）実施上の問題点と今後の課題

①　公募した場合の問題点

本年度は入学生を対象に，合格者登校日において全体の場で説明して公募した。こ

の場合，中学校において通級を利用していたり，特別支援学級に在籍していたり，苦手な部分が分かっているなど，本人・保護者ともに自立活動の指導の必要性について理解があり，授業への取組もよい。

一方で，本当に受講が必要であっても希望をしない生徒が，人間関係でトラブルを起こしたり，問題行動を起こしたり，成績不振になったりするなどにより退学していく。前年度のように半年間しっかり見立てをして，２年次から選択授業という形で実施していくほうが効果的であると思われる。また，本当に必要な生徒には学校からもっとしっかり働きかけて合意形成を図り、受講させるべきではないか，という意見も多い。

② １年次生の教育課程上の問題点

総合学科の場合，できるだけ多くの必履修科目を１年次生の教育課程に位置づけている。本校でも１年次では，「数学Ａ」以外の科目はすべて必履修科目である。従って自立活動を選択授業とする場合，「数学Ａ」との選択ということになる。つまり，「ＳＳＵ」を選択すると「数学Ａ」が履修できなくなり，大学進学などを希望する生徒には影響が出る。また，本校で前年２年次生を対象に実施した「キャリア活動」から，２時間連続授業で開講するほうが効果的であるものの，１年次における「数学Ａ」では２時間連続で開講できない（１時間×２コマ）。

③ 指導者不足および専門性の問題点

高等学校での通級による指導の場合は，教員が未経験であり，自立活動についても十分理解が進んでいるとはいえない。その中で，指導者を確保したり，育てていったりするには時間も予算もかかる。そのための研究や研究集録などであることは理解しているが,専門性が必要とされるので,今後も教育委員会の十分な支援が必要である。

さらに，障害者雇用に関する知識やノウハウが不足しており，適切なアドバスのできる人材の招聘や育成が今後は必要となると思われる。

また，専門性が高く，どうしても担当者任せになる傾向がある。

④ 生徒の自尊感情への配慮についての問題点

みんなと違う支援を受けることへの抵抗や、同じ中学校から進学してくる生徒がいることや、高等学校になってまで自立活動の指導は必要ないと思い，受講しない生徒もいる。

今後については，入学時にきちんと説明し，アセスメントをしっかり行った後，本人・保護者の理解を得ながら受講させていかなければならないと感じている。そのために，一つの選択授業として運用していく方法が，生徒の自尊感情への配慮につながると考える。

⑤ 制度等の問題点

本事業では，中心となって授業内容や教材を開発する自立活動担当者が予算化されたが，非常勤講師という身分のため，先進校や研修への出張ができなかった。また，チームティーチングで授業を行う２人の教員の授業時間数が増えた。

最終報告会は昨年度よりは多くの参加者があったが，高等学校の通級の研究であるにもかかわらず，高等学校からの参加が少なかったことが残念であった。次年度はさらに他の高等学校の教員の参加を促し,高等学校側の意見を取り上げてもらえるよう,特別支援教育課と連携していきたい。また，運営指導委員についても，他の高等学校の教員が入るなどして多面的な意見を聴取できる組織で取り組んだ方がよいと考える。